

# ザ・フェアモント エンプレス

実に優雅で気品に満ちたホテルだ。“The Empress”、名前の響きがまた良いではないか。日本の天皇后両陛下も2009年7月にカナダ公式訪問の際、このエンプレスに立ち寄られている。ご宿泊はビクトリアの副総督邸であったため、「The Empress Tea Room」においてアフタヌーンティーを召し上がられたと聞く。

カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州の州都はバンクーバーではなく、ここビクトリアである。ガーデンシティーと呼ばれる美しい街で、カナダで一番英国に近い雰囲気を持つ都市といわれる。1849年にバンクーバー島がイギリスの植民地になってからは首都となり、時の英国女王にちなんでビクトリアと命名された。ブリティッシュ・コロンビア州は、政治のビクトリアと、経済のバンクーバーとが兄弟都市として役割分担がうまく機能している。したがって2都市間の交通網は非常に発達しており、通常の航空機のほか、水上飛行機、船、バスごとフェリーに乗り込む定期バスなど多彩だ。一番便利なのは水上飛行機で、エンプレスの庭先にあるインナーハーバーに着水するので、すぐ目の前がホテルということになる。詳しくは筆者ホームページの「Edition 8」を参照されたい。

フェアモント・エンプレスはCPカナディアン・パシフィック・ホテルズ社によって1908年に開業した。その後の変遷を経てカナディアン・パシフィック・ホテル&リゾート社は、99年にフェアモント・ホテルズを買収し傘下に置くことになる。しかし今後の世界的ホテル展開を見越して、買収された側の「フェアモント」の名称は残すことにした。それが現在のザ・フェアモント・エンプレスの名称に至るヒストリーである。また、近くに建つ堂々とした州議事堂は1898年に建築家フランシス・ラッテンベリーによって建設されたが、実はエンプレスも彼の設計により建てられたものである。

フェアモント・エンプレスはスイートを含む全477の客室を擁し、メインダイニングの「The Empress Room」、インド・コロニアルスタイルの「Bengal Lounge」、アフタヌーンティーで有名な「The Empress Tea Room」等のレストランを有している。つい最近2009年には数百万ドルをかけて改修を行ない、特にゴールドフロアやスパ、ミーティングルームなどを充実させている。

ビクトリア観光のハイライトの一つにエンプレスでのアフタヌーンティーが挙げられるように、このホテルとビクトリアの街は一体化した関係にある。1965年に老朽化を理由にホテル取り壊しの計画が発表されると、市民はティーカップを持って対抗し、遂には計画を白紙に戻してホテルを救ったという。ホテルスタッフの純朴とも言えるホスピタリティ意識は心地よく、同時に市民からこよなく愛され、大きな誇りを抱かれているエンプレスは、世界で一番幸せなホテルと言えるかも知れない。



エンプレスのメインダイニング「The Empress Room」。非常に重厚で気品のある内装と調度品で優雅に食事を楽しめる。写真は朝食時の光景



メインダイニングルームと廊下を挟んで「The Empress Tea Room」がある。このアフタヌーンティーはビクトリア随一の人気を誇り、かなりの高額にもかかわらず常に満席である。ご訪問された両陛下も大変満足されたという逸話も残っている



決して豪華ではないが清潔で使い勝手の良いパウダーコーナーとアメニティ。バスルームも窓から深い日差しが差し込み心地よい空間である



この部屋はフェアモントゴールド・ハーバービューと呼ばれる客室で約40㎡の広さがある。クラシカルな雰囲気だがバスルームを含めて完全リノベーションが施され快適だ。窓からは美しいビクトリアのインナーハーバーが見渡せる



英国のマナーハウスのラウンジを彷彿させる雰囲気だ。リッツ・カールトンなどのクラブラウンジとは一線を画し家庭的なホスピタリティが特徴だ。朝食から夕刻のオードブル、カクテルアワーまでゆったりくつろげる

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



ビクトリアはカナダ、ブリティッシュ・コロンビア州の州都であり、その州議事堂近くはこのフェアモント・エンプレスは建っている。2009年7月には日本の天皇后両陛下がご訪問されている



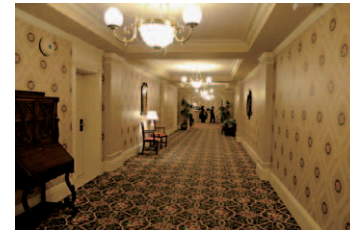
正面エントランスロビー。建物が増築された部分にあり余裕の広さだ。レセプションを中心にベルデスクとコンシェルジュデスクが一列に並びレイアウトである



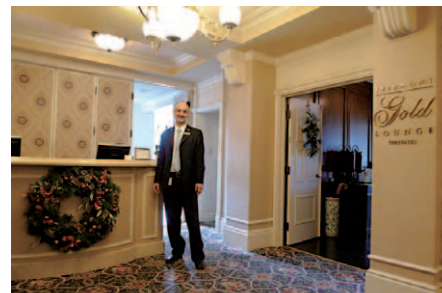
グランドフロアにあるアーケードの部分。きれいなクリスマスツリーが飾られ、華やかな高級フティックが数多く奥まで続いている



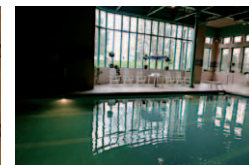
堂々とした風格のフェアモント・エンプレスの正面ファサード。東海岸ケベックの「Fairmont Le Chateau Frontenac」と対比される西海岸ビクトリアの「The Fairmont Empress」。皇后という優雅な名前を持つフェアモント・ホテルグループの旗艦ホテルの一つだ



ゴージャスな内装が施されたゴールドフロアの廊下部分。広間と一体となったような余裕の広さで、正面奥にクラブラウンジがある



フェアモント・ゴールドラウンジのレセプションカウンターで、本館2階の奥まった所にある。ゴールドフロアのゲストには専任のコンシェルジュが付き、さまざまな相談に乗ってくれる



ヘルスクラブに併設された温水プール。古典的な雰囲気だが外の芝生の美しさと相まって優雅な香りが漂う。右奥にジャグジーもある

筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。  
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけにとどまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。  
www.jhrca.com/worldhotel

